

サブテーマ名：高輝度光ビームによる薄膜形成技術に関する研究 小テーマ名：紫外線吸収剤を正孔輸送層に用いた有機 E L 素子の開発															
サブテマリーダー（所属、役職、氏名）福井工業高等専門学校、教授、太田泰雄 研究従事者（所属、役職、氏名）福井工業高等学校、助教授、川本 昂 シプロ化成（株）、技術課主任、高戸 章暎															
研究の概要、新規性及び目標 研究の概要 紫外線吸収剤を E L 素子の正孔輸送層に使用することにより耐久性の高い E L 素子を開発する 研究の独自性・新規性 紫外線吸収剤を E L 素子に利用する研究例は他にない。 研究の目標（フェーズ毎に数値目標等をあげ、具体的に） フェーズ：紫外線吸収剤の見極め フェーズ：- フェーズ：研究成果の実用化を目指す。															
研究の進め方及び進捗状況（目標と対比して） フェーズ：紫外線による劣化防止効果は確認できたが、実用化できるような十分な輝度は得られなかった。現在、研究従事者である高戸は品質保証課に配属になり、また製品化の可能性が低いため研究は中止となった。 フェーズ：- フェーズ：研究成果の実用化を目的として、これまで得られた研究成果をベースに残された研究課題の解決を図る。															
主な成果 具体的な成果内容： 一般的な紫外線吸収剤では、化学構造、電子構造は正孔輸送層に類似しているが移動度が低く、そのまま有機 E L 素子の正孔輸送層に使用出来ないことが明らかとなった。  特許件数：0                      論文数：0                      口頭発表件数：0															
研究成果に関する評価 1 国内外における水準との対比 紫外線による耐久性は向上したが発光輝度は一般的な正孔輸送材料に比べ 4 桁以上低い。  2 実用化に向けた波及効果 実用化の見通しなし															
残された課題と対応方針について E L 素子関係の研究は中止した。															
	J S T 負担分（千円）							地域負担分（千円）							合 計
	H 12	H 13	H 14	H 15	H 16	H 17	小計	H 12	H 13	H 14	H 15	H 16	H 17	小計	
人件費	0	129	0	0	0	0	129	0	409	0	0	0	0	409	538
設備費	0	0	0	0	0	0	0	0	214	0	0	0	0	214	214
その他研究費 （消耗品費、 材料費等）	0	0	0	0	0	0	0	0	1,970	0	0	0	0	1,970	1,970
旅費	0	52	0	0	0	0	52	0	0	0	0	0	0	0	52
その他	0	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	6
小 計	0	187	0	0	0	0	187	0	2,593	0	0	0	0	2,593	2,780
代表的な設備名と仕様 [ 既存（事業開始前）の設備含む ] J S T 負担による設備：なし 地域負担による設備：なし															

複数の研究課題に共通した経費については按分する